

# 第一部

## 「核の傘」依存低減に向けて ～非核保有国の政策～

中村桂子・榎本浩司・吉田文彦

# 「核の傘」依存国とは何か

1. 多国間・成文化モデル: 北大西洋条約機構 (NATO)
2. 二国間・成文化モデル: 日米安保体制、米韓安保体制
3. 二国間・非成文化モデル: 米豪 (ANZUS) 体制



拡大核抑止への依存



NPT上の核軍縮義務

# 「核兵器禁止条約」成立過程における 「核の傘」依存国の動向

1. ノルウェー：人道アプローチ支持から否定へ ← 政権交代
2. 日・豪等の多数派：一貫して反対 ← 安全保障上の懸念
3. オランダ：参加のうえ反対 ← 国内世論の圧力

# オーストラリアと「南太平洋非核地帯」(ラロトンガ条約)

## 1. ANZUSとラロトンガ条約:「核の傘」と「非核」の相克

- ・米国の姿勢
- ・国内情勢
- ・周辺国との信頼関係

## 2. 「核依存」と「非核地帯」: メリットとデメリット

- ・「核の傘」のコスト

## 3. オーストラリアの安全保障政策

- ・直接の脅威の不在
- ・国内情勢と「惰性」

# 消極的安全保証の意義と役割

## 1. 非核兵器国に対する核兵器の使用および威嚇の禁止

- ・NPT上の非核兵器国への代償

## 2. 消極的安全保証の現状と限界

- ・一方的宣言と法的不安定

## 3. 非核兵器地帯と消極的安全保証：選択議定書

- ・法的拘束力を求めて

# 核抑止過剰依存とそのリスク認識

## 1. 「核抑止」効果の評価

- ・客観的評価の困難

## 2. 拡大核抑止のリスク

- ・米の核政策、北朝鮮の姿勢、先制攻撃の可能性、非人道的行為の誘発、EMP攻撃、MDによる軍拡の誘発

## 3. 過剰な核抑止への依存の回避

- ・先制不使用の検討
- ・通常戦力による対応への移行

# 北東アジア非核化への包括的アプローチ 再検証と今後の対応

1. 北東アジア非核兵器地帯構想
2. 北東アジアの平和と安定へ向けた包括的アプローチ
3. 北東アジア非核兵器地帯と拡大核抑止
  - ・短期的な整合性と長期的展望

## RECNA提言：北東アジア非核兵器地帯設立への包括的アプローチ (2015年3月)

1. 朝鮮戦争の戦争状態の終結を宣言し、「枠組み協定」締約国の相互不可侵・友好・主権平等などを規定する。
2. 核を含むすべての形態のエネルギーにアクセスする平等の権利を謳う。「北東アジアにおけるエネルギー協力委員会」を設置。宇宙技術開発の権利も保証。
3. 北東アジア非核兵器地帯条約締結に合意。
  - － 「スリー・プラス・スリー」(韓国、北朝鮮、日本の「地帯内国家」と米国、中国、ロシアの「周辺核兵器国」)の6か国条約。周辺各核保有国が地帯内国家に核兵器による脅威、攻撃を与えない。これにより「拡大核抑止力(核の傘)」が不要となる。
4. 常設の北東アジア安全保障協議会を設置する



[http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/Proposal\\_J\\_honbun.pdf](http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/Proposal_J_honbun.pdf)  
[http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/Proposal\\_E.pdf](http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/Proposal_E.pdf)